

(別紙5)

【補助事業概要の広報資料】

補助事業番号 26-1-084
補助事業名 平成26年度 検診車の整備 補助事業
補助事業者名 公益財団法人 宮城県対がん協会

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

医療過疎状態となっている被災地住民の疾病の早期発見、早期治療及び予防を図るため検診車を整備し、巡回検診を行うことによりがんによる死亡率を減少させることを目的とする。

(2) 実施内容

胃部X線デジタル検診車

http://www.miyagi-taigan.or.jp/kensinsya_iryouki_new.htm

<検診車全長の比較>



今回製作した胃がん検診車は、全長が8.49mで従来の検診車よりも0.5～1.0mほど短い車体となっており、被災地域等の狭い会場にも設置できるようにコンパクトな設計としました。

(別紙5)

< X線操作室・透視撮影台操作卓 >



< X線撮影室・透視撮影台 >



< X線撮影室・X線撮影機器 >



X線装置については、最新の画像処理システムを導入し濃度調整、周波数処理、画像拡大、白黒反転等を行うことにより病変の抽出に大変優れております。

(別紙5)

2 予想される事業実施効果

今回コンパクトな胃部X線デジタル検診車を整備されたことにより、被災地等の狭い検診会場を巡回し、多くの住民の方々に胃がん検診の受診できる機会を提供し、がんの早期発見・早期治療が見込まれます。

3 印刷物等

本事業に係る印刷物等

① 平成26年12月25日 命名披露式開催時に作成したパンフレット

<http://www.miyagi-taigan.or.jp/image/pamphlet1-4.jpg>


(構造および装置)

1 シャシー 三菱 QKG-FR65FKZ
 車体全長 8,690 mm ホールベース 4,870 mm
 車体全高 3,295 mm 出力 270 PS
 車体全幅 2,690 mm 定員 4名
 室内幅 2,290 mm 総重量 10,700 Kg

2 ボディ架装 台資会社 中北車体工作所

3 搭載装置 東芝 I-1 DR装置 (AsteRa)

デジタル胃検診車
 きぼう 12号
 平成 26年 12月 25日



「きぼう12号」は従来の検診車より小型化され、小さな会場にも対応できるよう製作いたしました。最新の医療機器により今後も、住民皆様の健康維持増進に役立つよう努力してまいります。

公益財団法人 宮城県対がん協会

年 度	受 診 者 数 (A)	検 診 者 数 (B)	電 気 検 査 率 (C)	検 診 者 数 (D)	胃 癌 検 出 率 (E)
平成25	291,034	245	0.08	291	33.44
24	276,214	265	0.10	265	33.44
23	266,487	277	0.10	277	33.37
22	263,815	1,039	0.39	561	33.37
21	258,263	286	0.11	286	33.34
20	190,769	217	0.11	217	33.34
19	150,263	280	0.20	280	33.34
18	130,008	251	0.19	247	33.33
17	116,872	251	0.21	247	33.33
16	106,008	227	0.21	205	33.33
15	96,008	140	0.15	112	33.33
14	178,115	330	0.17	337	33.33
13	167,265	306	0.18	292	33.33
12	162,008	307	0.19	291	33.33
11	161,265	307	0.17	289	33.33
10	161,265	307	0.17	289	33.33
9	161,265	307	0.17	289	33.33
8	161,265	307	0.17	289	33.33
7	161,265	307	0.17	289	33.33
6	161,265	307	0.17	289	33.33
5	161,265	307	0.17	289	33.33
4	161,265	307	0.17	289	33.33
3	161,265	307	0.17	289	33.33
2	161,265	307	0.17	289	33.33
1	161,265	307	0.17	289	33.33
合計	2,727,273	14,314	0.52	9,316	33.69


※平成26年度受診者数4,897名、検診者数1,039名となっております。

このパンフレットは台資会社中北車体工作所・東芝日立自動車保険株式会社・東芝医療株式会社のご協力をいただきました。(50頁版)

<http://www.miyagi-taigan.or.jp/image/pamphlet2-3.jpg>

あいさつ

公益財団法人 宮城県対がん協会
 会 長 久 道 茂



このたび、「公益財団法人JFAの補助事業」により、デジタル胃検診車「きぼう12号」を製作することができました。本日、命名・披露式を行うにあたり一言ご挨拶申し上げます。

皆様には平素より当協会の事業に格別のご支援、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、当協会は昭和35年、被災地の黒川・西山式胃がん検診車「日笠号」を完成させ、名取市において組織的に検診を実施したのが我が国における単による集団検診の始まりで、以来54年、我が国の胃がん検診の先駆的役割を果たしてまいりました。

そして、今年10月に胃がん検診受診400万人を達成し、約1万5千人の胃がんやその危険性を数多く発見してまいりました。

しかしながら、がんによる死亡数は年間36万人を超え、全死亡数の3人に1人が、がんにより死亡するという現状に残念な結果となっております。がんは罹患する人の数も一向に減少をみない状況において、当協会の使命は益々大きくなっており、当協会の掲げる「がん検診受診率70%以上」を目標として、がん検診の重要性についての啓発活動を行いながら、常に検診機材管理の臨機応変に努め、今後も質の高い検診の提供に努めます。

この検診車は、最新のデジタル式X線装置を搭載し、従来の検診車に比べコンパクトで、東日本震災において被災し、いまが復旧・復興の途にある沿岸部および被災地をはじめ、県内各地を巡回し、がんの早期発見・早期治療を行う役割を果たすことを目的として製作いたしました。

今回の検診車製作にあたり、「JFAをはじめご協力いただきました関係機関の皆様」に対しまして改めて感謝申し上げます。

当協会は公益法人として市民の負担に配慮しながら、がん検診運動を推進してまいりますので、今後ともなお一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

平成 26年 12月 25日

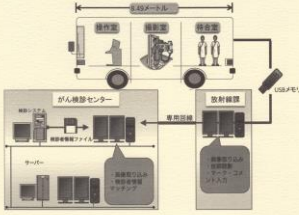
デジタル胃検診車「きぼう12号」の導入にあたって

宮城県対がん協会の胃がん検診は、昭和5年(1930年)世界初の胃腸X線検診車(レンズ式胃腸撮影法35mmフィルム)を導入し、平成18年(2006年)にデジタル検診車に移行され県内の住民検診を中心にやってきました。今回導入される「きぼう12号」は通常50台目の検診車となります。検診車の設計は小型化され、小さな会場にも対応できるようになりました。

X線装置は東芝製「I DR装置 (AsteRa)」を搭載しました。ソフトウェアは撮影画像をリアルタイムに確認でき、撮影中の追加撮影が容易になります。また画像処理(過渡調整、周波数処理、画像拡大、白黒反転等)を行うことにより病変の抽出に大変役立っています。

撮影した画像はUSBメモリに記録して持ち帰り画像確認、マウジングをした後、最終的にがん検診センターのモニターに送付されます。画像の撮影は検診用高精細モニターの液晶ディスプレイにて行い、過去画像との比較も容易でより精度の高い胃がん検診が期待できます。

今年(平成26年)は胃がん検診受診400万人を達成しました。最新の医療機器により今後もより質の高い検診を行い、早期発見に努めてまいります。



② 協会の機関誌「ともしび」平成27年7月の141号に掲載予定

http://www.miyagi-taigan.or.jp/new_tomoshibi_index.htm

(別紙5)

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 公益財団法人 宮城県対がん協会
(コウエキザイダンホウジン ミヤギケンタイガンキョウカイ)

住 所： 〒980-0011
宮城県仙台市青葉区上杉5丁目7-30

代 表 者： 代表理事 久 道 茂 (ヒサミチ シゲル)

担 当 部 署： 総務課 (ソウムカ)

担 当 者 名： 主幹兼係長 及川 貴司 (オイカワ タカシ)

電 話 番 号： 022-263-1636

F A X： 022-263-1548

E - m a i l： office@miyagi-taigan.or.jp

U R L： <http://www.miyagi-taigan.or.jp>